

## スタンダードチャータード PLC

## 2012 年度業績予想

2012年12月7日

(本資料は、ロンドンにて2012年12月6日付で配信した発表資料の参考訳です。)

スタンダードチャータードPLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」「グループ」または「当行」)は、2012年度12月期年次会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しております。当文書では、当該説明会にてご報告する内容の詳細について述べさせていただきます。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズのコメントは、以下の通りです。

「スタンダードチャータードは、2012年度も再び堅調な業績を達成する見通しです。当行グループは、銀行業の原則の順守、強力・慎重に管理されたバランスシートの堅持、独自戦略の規律ある実行を、引き続き経営の基本としています。当行が事業展開するアジア・アフリカ・中東市場では、大きな事業機会が生まれ続けています。」

本年第3四半期に、ニューヨーク州金融サービス局(以下「ニューヨークDFS」)への和解金3億4千万米ドルの支払いが発生しました。グループは、米国の対外制裁に関連する当行の過去のコンプライアンスにかかる件について、米国の他の当該機関と解決に向けた積極的かつ建設的な協議を継続中です。これらの協議は極めて近い将来に結論に至り、グループが総額約3億3千万米ドルを支払うことで決着する見通しです。

2012年度の費用と税引き前利益に関わる当行グループの全コメントには、ニューヨークDFSへの和解金3億4千万米ドルは含まれますが、米国の他の当該機関との今後予想される和解金については含まれておりません。

以下の数値は、特に明記のない限り、2011年度との年次ベースでの比較となっております。

### グループ

当行グループの業績は、2012年度上半期に続き、堅調に推移してきました。2012年度通期の営業収益は、一桁台後半の伸び率になることが予想されます。尚、アジア通貨の対米ドル安が続いていますが、為替変動の影響を除いた恒常為替レートベースで見ると、営業収益は二桁成長となります。為替換算に伴う影響は、減少傾向にあります。好調な業績は、当行の商品の多様性と営業拠点の広がりによってもたらされています。

2012年度は多くの地域・国で業績が堅調に展開しました。アフリカに加え、南北アメリカ・英国を含む欧州、そしてマレーシア・中国・インドネシアの営業収益は、前年比で二桁成長が予想されます。グループにとって依然として最大の市場である香港における営業収益は、一桁台後半の成長となる見通しです。

グループ全体の純受取利息は、2012年度全期を通し全体的に安定していました。多くの市場において流動性を高水準で維持してきましたが、資産マージンについては競合からの圧力が高まりました。

コストの厳格な管理を続けてきた結果、2012年度は、ニューヨークDFSへの和解金支払いを差し引いても、収益成長がコスト増を上回ることが予想されます。

グループは、収益の持続的な成長を下支えするために、ホールセールバンキングとコンシューマーバンキング両部門で投資を継続的に実施しました。前者ではトランザクションバンキング事業、後者ではモバイルテクノロジーへの投資が含まれています。中国とアフリカ諸国では、支店網の拡充を引き続き進めています。将来の成長に備えたインフラ投資の継続を反映して、新規採用が行われており、グループ全体の行員数は2011年末比で1千8百人強の増加が予想されます。

2012年度の減損損失控除前利益は、前年比で一桁台後半の伸びとなる見通しです。

ホールセールバンキングとコンシューマーバンキング両部門のアセットクオリティ(資産の質)は、引き続き良好です。コンシューマーバンキング部門のクレジットコストは、既にご報告の通り、以前のお知らせどおり、増加が見込まれています。一方、ホールセールバンキング部門の2012年度下半期のクレジットコストは、現在の予想では同上半期を下回る見通しです。

グループの税引き前利益は、一桁台半ばの成長が予想されます。ニューヨークDFSへの和解金を除外した税引き前利益は、二桁台の伸びとなる見通しです。

バランスシートの多様化と健全性は引き続き維持されており、問題資産へのエクスポージャーは限定的な水準にとどまっています。

グループは高い流動性を維持し、預貸率も堅調で、2012年半ばの時点で「バーゼル3流動性カバレッジ比率(LCR)」のベンチマークである100%(現在提案されている水準)を既に達成しています。両部門のバランスシートについては、資産・負債の両サイドで健全な拡大が続いています。融資と預金は、前年比で一桁台後半の成長が予想されています。融資は、目標とする部門と地域において、規律ある拡大を推進しています。リスク加重資産(RWA)は既にご報告の通り、二桁台の成長が見込まれています。

グループは堅固な自己資本を維持しています。2012年度通期のコアTier1資本比率は、主にニューヨークDFSへの和解金の影響で、上半期の水準をやや下回ると予想しています。

資金調達に関しては、グループは慎重な調達構成を堅持しており、今後数年間に必要となる借り換えは最小限に抑えています。当行グループは11月に、2012年度としては3回目となる劣後債(7億5千万ユーロ、期間10年のTier2資本調達)発行を実施しましたが、グループが発行する債券に対する市場の反応は極めて良好で、前二回の起債に続いて旺盛な需要が見られました。11月の起債は、10月に成功裏に行われた優先無担保債(12億5千万ユーロ、期間5年)の発行に続くものでした。

## コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の2012年度営業収益は、一桁台半ばの成長が予想されています。同部門の業績は、一部通貨の対米ドル相場下落の影響を受けました。

コンシューマーバンキング部門の資産マージンは、同部門が扱う業務、とりわけクレジットカード業務において、競合から若干の圧力を受けました。しかし、より高いマージンが予想される無担保業務への段階的な移行が進んでいることを考慮すると、同部門の資産マージンは全体的に増加が期待されます。

韓国・台湾におけるコンシューマーバンキング部門の営業収益は、2012年も引き続き弱含みとなる見通しです。対照的に、現時点での予測では、マレーシア・中国・インドネシア・アフリカの収益は二桁台の成長となり、香港・シンガポール・中東南アジア(MESA)では一桁台半ばの成長が予想されています。

商品別では、不動産融資事業は改善傾向を示しています。不動産融資事業の営業収益は、利益率の下方圧力と、当グループが事業展開をする市場の多くにおける規制強化の影響を受けてきました。2012年度通期の前年比下げ幅は、一桁台半ばを予想していますが、下半期の収益に限れば、前期比で二桁台の増加になる見通しです。これは、下半期に融資残高の総額が増えたことと、手数料収入の若干の増加を反映したものです。後者では特に、韓国における不動産融資規則の緩和が貢献しました。

預金事業の収益は、総じて安定した利鞘を反映して、2012年度通期ではほぼ二桁台の成長が予想されます。預金残高の総額は二桁台、もしくはほぼ二桁台の伸びになる見通しです。

ウェルスマネジメント事業の2012年度収益は、上半期に若干の成長を記録しましたが、通期では2011年度比でほぼ横ばいとなる見込みです。

クレジットカード事業と個人向け融資事業の収益は、二桁台の成長が予想されます。与信残高が、特に香港・シンガポール・韓国・MESA・アフリカで増加したことから、利鞘の下方圧力の影響が相殺されました。

中小企業(SME)顧客向け事業は、高い担保付与率を維持しています。同事業の2012年度収益は、トレードファイナンス・運転資金・融資の増加を背景に、成長が見られた上半期の流れがほぼそのまま続き、通期では一桁台半ばの伸びが予想されます。マレーシア・中国・インドネシア・アフリカ・MESAでのSME事業収益は二桁台になる見通しです。

コンシューマーバンキング部門では引き続き厳格なコスト管理を行っており、2012年度の費用の増加は、前年比で一桁台前半に抑えられると予想しています。その要因としては、2011年度末に導入した、韓国における早期退職計画による経費節減効果が、2012年度に顕著となったことが挙げられます。コンシューマーバンキング部門の2012年度費用収益比率は、ポジティブとなる見通しです。

2012年度下半期のクレジットコストは、予想通り、上半期比で二桁台の増加になると予測されていますが、それは融資残高と融資ポートフォリオの変化を反映したものです。

コンシューマーバンキング部門のクレジットクオリティ(信用の質)は、ごく一部にクレジットリスクの上昇圧力が見られるものの、引き続き良好です。先行指標は2011年末の水準から概ね変化がないことを示しています。2012年度下半期のクレジットコストは、先に行なったポーフォリオの洗い直しに伴う資産売却の恩恵を受けることが予想されています。その額は、2012年度上半期に計上された4千3百万米ドルと同水準になりそうです。

以上の結果、コンシューマーバンキング部門の2012年度税引き前利益は、前年比で一桁台半ばの成長が予想されます。

### **ホールセールバンキング部門**

ホールセールバンキング部門では好調な業績が続き、2012年度通期は一桁台後半の成長が期待されています。規制強化、とりわけ流動性規制に伴う大幅なコスト増にもかかわらず、同部門の収益は大変好調に推移してきました。

顧客収益は、ホールセールバンキング部門の収益の80%強を占め、引き続き同部門の成長エンジンとなっています。2012年度の顧客収益は、一桁台後半の成長になる見通しです。

商業銀行事業にはトランザクションバンキング・融資・実需ベースの為替取引が含まれ、ホールセールバンキング部門の中核をなしており、顧客収益全体の半分以上を占めます。

商業銀行事業の収益内訳としては、トランザクションバンキングが前年比で二桁台成長、トレードファイナンスがかなり大幅な成長での二桁台、キャッシュマネジメントが一桁台後半の成長となることがそれぞれ予想されています。トレードファイナンスとキャッシュマネジメントの平均残高は、多くの市場において高い流動性を維持しているにも関わらず、2012年度には二桁台、ないしはほぼそれに近い成長が見込まれています。

コーポレートファイナンスは、2012年度上半期の好調な業績の流れを受けて、下半期でも堅調に推移を続け、二桁台の成長を達成する見通しです。業務の流れは引き続き順調です。

フィナンシャルマーケット事業の収益は、金利とクレジットの業績が好調だったものの、為替とコモディティの業績が低迷したため、前年比で概ね横ばいになる見通しです。

自己勘定取引の収益は、既にご報告の通り、プリンシパルファイナンスの堅調な業績を主に反映して、前年比プラスになることが予想されています。

ホールセールバンキング部門でも引き続き厳格なコスト管理を行ってきましたが、ニューヨークDFSへの和解金の影響を受けて、コストの増加が収益の増加を若干上回る見通しです。

2012年度下半期のクレジットコストは、現時点では上半期の水準を下回って推移しています。通期のクレジットコストは前年比で二桁台の増加が予想されています。2012年度のクレジットコスト勘定は2013年2月末にならな

いと確定しません。しかし、2012年下半期には新たなクレジットコスト上昇に伴う引当は発生していないために、ポートフォリオの質は引き続き良好で、ストレスとなる徴候は一切見られません。ポートフォリオは多様性に富む短期資産で構成されています。グループでは、とりわけインドと中東における業績の推移を引き続き注視しています。

以上の結果、ホールセールバンキング部門の2012年度税引き前利益は、前年比で一桁台半ばの成長を予想しています。ニューヨークDFSへの和解金の影響を除外すると、堅調な業績が見込まれ、2012年度通期の税引き前利益は二桁台の伸びが期待されています。ホールセールバンキング部門全体では、引き続き好調な業績が続くと予想しています。

### 総括

当行グループの収益とバランスシートは、商品・顧客層・地域のいずれの点についても、引き続き十分に多様化されています。バランスシートの多様化と健全性は引き続き維持されており、自己資本と流動性のいずれも堅固です。

グループは、戦略の規律ある実行を経営の基本とし、リスクとコストを厳しく管理する一方、2012年度も再び堅調な業績を達成する見通しです。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

[Ca.Japan@sc.com](mailto:Ca.Japan@sc.com)

-----

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測される出来事に基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来の出来事や情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。